

修了生の皆さんへ

本日は、修了、おめでとうございます。本来でしたら、修了式で各々に学位記を授与してお祝いするところですが、残念ながら、今年度はこのような形になってしまいました。しかし、これはこれとして、自分たちの大事な修了の年として記憶に留めておいてください。後で振り返ると、きっと特別な意味での様々な感慨が蘇ってくることと思います。

修了される皆さん全員、人文社会科学の学問をそれぞれの分野・領域で学び、またそれぞれ自分の視点から取り上げたテーマをとことん追求し、論文に纏めたことと思います。もちろん、もっとやりたいこと、補いたいこと、修正を入れたいところ、などなどあると思いますが、それはこれからの更なる課題として取り組み続けていって欲しいと思います。

人文社会系の学問といえば、よく社会との関係——社会への還元、社会での役割等々——が指摘されます。デジタル化が目まぐるしく進む社会の中で、ますますそれが問われるところですが、そのような社会になればなるほど、逆に、皆さんが学び、研究してきたことが重要になってくるのが指摘されています。最近、society5.0 や digital-humanities2.0 といった用語をよく耳にしたいと思います。これは、デジタル技術が進歩・発達した先にある社会のイメージで、技術的な進歩・発達が行きついた先には、それが人やその生活とどう融合していくべきか、人の生活の豊かさとどう結びついていくのかという問題を提起するもので、AI 化が進んで行く近未来的な社会における人の在り方、生活の在り方、そして人間関係の在り方を提示するものです。そして、そのようなこれから現出する社会においては、人文社会的な視点、発想、思考、感情、情緒が逆にもっと重要になるということです。つまり、皆さんが本教育部で学び、身に付けた専門力、思考力、判断力が今後一層重要で、必要なものになるということです。

お話ししたように、専門的に学んだこと、また取り組んだ研究はもちろん重要で貴重なものですが、それを通して知った苦しみや楽しさ、その過程で得た先生や友人とのつながりもまた、かけがえのない、貴重なもので、それは一生の宝となるものです。皆さんがそれぞれに本教育部で得たものを、頭に、また心に刻み、誇りを持って今日飛び立ち、そして明日からを歩んで行くことを心から願っています。Congratulations!!!

令和2年3月24日
大学院社会文化科学教育部長
隈元貞広